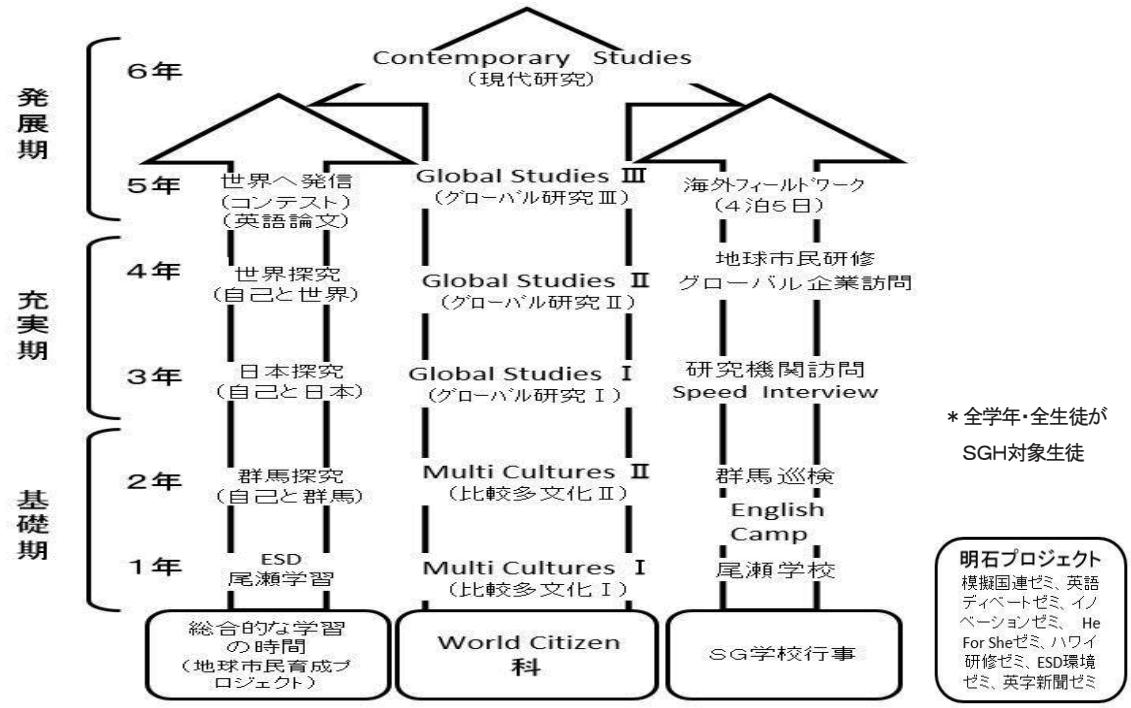
群馬県立中央中等教育学校

「地球市民としての日本人」の育成を土台とした グローバル・リーダー育成

【構想の概要】

現代の日本人に必要なグローバルな視野と多文化感覚、郷土意識を体験的に身に付け、国際的なコミュニケーションの手段として高度な英語運用能力を土台とし、グローバルな課題を旺盛な問題意識により発見し、それを粘り強いチャレンジ精神と創造的、探究的思考力で積極的に解決できるグローバル・リーダーを育成することを目的とする。



研究開発の４本柱

本校のＳＧＨの取組で最も大きな特徴の１つは、全生徒及び全教員が関わる「地球市民育成プロジェクト（総合的な学習の時間）」及び World Citizen 科（学校設定科目）を、スーパーグローバル（ＳＧ）学校行事、明石プロジェクト（課外ゼミ活動）と複合的に結びつけ、学校のあらゆる教育活動の場面においてグローバル人材育成の目標を意識した実践を行うことにある。

総合的な学習の時間においては、尾瀬→群馬→日本→世界という流れで、学年を追うごとに地元に生きる自分から視野を拡大していき、最終的には世界で生きる自己を見据えた上で、自らのメッセージを英語で世界に発信することを目指して個人研究を行う。World Citizen 科においてはＩＣＴ・統計資料活用基礎能力、多文化基礎理解に始まり、グローバルな社会意義を持つ幅広い８つの分野（国際事情・世界の宗教・国連活動・国際経済・グローバルビジネス・ＥＳＤ・環境問題・比較文化）から生徒自らが自由に研究課題を設定し、グループ研究を行う。そしてこれらの課題研究活動を通して生徒が身に付けた資質・能力を、多様なＳＧ学校行事や明石プロジェクトの活動において更に自発的・主体的な形で発揮させることで、グローバルリーダーの育成を図っている。

全員の学び合いによる創造性

課題研究の中心となる活動は、前期課程（1～3年）、後期課程（4～6年）を問わず一貫して実践している、生徒同士のディスカッションと発表会である。1時間の授業のほとんどを生徒同士のディスカッションの時間に充て、評価基準として共感・批判・指摘・提案の４つの視点を持ち、自分の能力に合わせて積極的にディスカッションする。この取組により、発表会の質疑応答では学年を超えて質の高い議論のやり取りができるようになった。

発表会は年間に校内だけでも８回以上開催（主に7月、9月、2月、3月）している。生徒は他学年の研究に触れることで、上級生の発表を聴いて具体的な目標（ビジョン）を持てたり、下級生の発表に対して自身の経験から適切に助言ができたりするようになってきている。また、連携大学から多数の指導助言者を招聘し、専門的な指導も受ける機会となっ

ていることから、大学生や大学教員らの助言等を通して、将来の目標（ビジョン）を持つ機会となっている。

このように、教員に頼らず、生徒同士（同級生や他学年）や指導助言者とのディスカッションの機会をできるだけ多く設けるという指導方法により、「発見した課題の解決に際して明確なコンセプトや創造的なビジョンを示せる人材」の素養が備わりつつあると考えられ、県や全国のコンテストにおいても大きな賞を獲得するという形で着実に成果として表れてきている。

教科のＳＧＨ化への取組み

昨年度、本校のＳＧＨを中心とする教育活動全体の成果を評価するためのツールとして、包括的なグローバル人材育成評価ルーブリックを作成した。ルーブリックは４つの領域、12の力、36の力の構成要素から成り、本校の教育目標の全体像を具体的に表現するものとなっている。本年度はルーブリックの運用の初期段階と位置づけ、育成目的の利用を重視して生徒の自己評価を実施するとともに、ルーブリック評価指標と教科の授業目標・活動の関連づけを行い、教科指導の中でグローバル人材育成をいかに実現していくかを探究するため、公開授業や情報・意見交換会を積極的に行っていく予定である。